

「世界とつながる私」

大石真也

このたび埼玉親善大使としてオーストラリアのクイーンズランド大学へ派遣されました大石真也です。留学プログラムを終えての報告をしたいと思います。留学に興味をもっている人、オーストラリアを訪れてみたい人、そんな人たちが“埼玉”から“世界”へ飛び立つために私の体験をお伝えします。



Lone Pine koala sanctuary にて

1. What was Brisbane like?

私は高校1年生の時にオーストラリアのアデレードの高校で勉強したことがあり、今回が2度目のオーストラリア留学となりました。クイーンズランド大学があるオーストラリア第3の都市ブリスベンは大きく蛇行しながら流れるブリスベン川を中心に、ビル群やショッピングモールがある市街地が広がり、そこから車で20分走ると緑豊かな住宅地があります。また電車で約1時間行くと、世界有数のリゾートビーチ ゴールドコーストです。また高校や大学等の教育施設があり、多くの留学生が学んでいる都市です。町や大学を歩いていると様々な人種の人に出会います。ブリスベンには日本食をはじめとしたアジア料理のレストランが多数あります。私のホストファミリーはホストマザーがコロンビア人で、オーストラリアは“人種のるつぼ”であると改めて感じました。日曜日には市内で北欧のスカンディナヴィアフェスティバルが行われており、オーストラリアにいながら北欧文化に触れることが出来ました。多国籍の人が集まるオーストラリアでは必然と多様な文化が生まれ、前回の留学とは全く違った体験を数多くし、初めて来たような感覚に何度もさせてくれる、そんな国がオーストラリアです。



ホストファミリーとの週末の朝食BBQ



州内の鉄道



ブリスベン川を通るフェリーからの一枚



留学生たちとのゴールドコースト旅行



ゴールドコースト
サーファーズパラダイスビーチ



ブリスベン市庁舎

2. The life in UQ

ICTEの授業は朝8時45分から10時半までが1時間目。その後、日本とは少し違った習慣ですが、11時までモーニングティーの時間があります。11時から12時45分までが2時間目でランチタイム、13時45分から15時半、日によっては15時45分までが3時間目です。午前中の授業ではリーディング&ライティングの授業とリスニングの授業が週1回ずつ、ディスカッションの授業が週3回ありました。午後はビジネスのクラスを受講しました。プレゼンテーションスキルの向上の練習やビジネスメールの書き方、社会問題についてディスカッション等のハードな内容となっていました。授業では話すことに重きが置かれ、クラスメイトと英語で話す機会がたくさんありました。私のクラスには韓国、台湾、コロンビア、サウジアラビア、中国など様々な国籍の人々が在籍していました。大学の法律学の授業に勝手に潜り込んで勉強した事もありました。

休日はブリスベン市街にあるショッピングモールに行く日もあれば、ゴールドコーストでサーフィンを楽しむなど、大変充実していました。また、公園には無料で使用できるバーベキュー機械があり、休日に川沿いの公園に食材を持っていき朝食を食べることもありました。他にも、中国人留学生が週末に中華料理を食べに誘ってくれることもあれば、外国人留学生を日本食レストランに連れて行き日本食を一緒に食べに行くこともありました。言語だけでなく、食を通して異文化交流をすることができました。

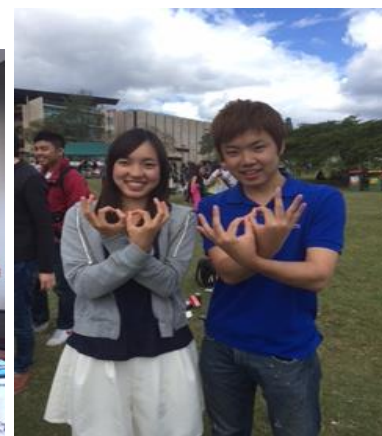
海外では自分の意見をはっきり主張することが常に求められます。今までドイツ、オーストラリア、マレーシア、イギリスなど様々な国を訪れた経験からこのことは常に頭に入れていました。“yes or no”を求められる中でディスカッションでは常に積極的に発言し、引っ張っていくことを心がけました。私は自己主張がかなり強いので、時に外国人と喧嘩になるぐらい熱い議論をかわしました。海外の学生のハートの熱さを肌で実感しました。このようなヒートアップしすぎてしまうぐらいの議論をできたことは、私にとって大きな財産になりました。腹を割ってお互いの国の宗教や政治など、一見タブーに思える事柄についても、先入観なしに語り合える時間が宝物のように感じました。



クラスメイトとの昼食



クラス集合写真



クラスに広めた“埼玉ポーズ”



学内の広大な芝生でリラックス



大学の正門にて



最終日のB B Q



仲よし韓国人学生の友人たち



スカンディナビアフェスティバル

3. As a Goodwill Ambassador of Saitama Prefecture

埼玉県の親善大使としては、ホームステイファミリーに自分の住んでいる所について話す機会が多々ありました。自分の家や近所、通っていた高校の写真を見せながら話すと喜んで聞いてくれました。また戦国武将のTシャツや狭山茶をプレゼントし、毎日の夕飯では家族全員で緑茶を飲みました。ホストファミリーは1980年代に日本に数か月滞在した経験があり、私が生まれる前の日本について話を聞くという不思議な体験をしました。また、ルームメイトには奈良県出身の日本人留学生もいたため日本の話題が絶えず、とても興味を持ってもらいました。

学校では、ビジネスクラスで自分の好きなテーマについてプレゼンテーションする機会が設けられていました。そこで私は埼玉県の魅力を伝えようと思い、

埼玉についてプレゼンしました。一番興味を持ってくれた話題が成人式についてでした。私が生まれ育った蕨市が成人式の発祥の地で、全国に広まったことを説明し、私も来年1月に成人式を迎える話をすると是非写真を見せてほしいと喜んで聞いてくれました。驚いたことにクイーンズランド大学には埼玉県出身の日本人留学生が多くいたため、学校内で埼玉の話が話題に上がることも少なくありませんでした。親善大使としての責任感からか家や学校では常々、日本に来たら是非埼玉に遊びに来てほしいと口にしていました。

今回の留学で私が一番感じたことは海外の学生の将来に対する意識の高さです。彼らは自分の未来について明確なビジョンを持っており、そのために何を学ぶべきなのか理解し勉強しています。将来こういう仕事に就きたい、だから英語を実用的なレベルで操れるようになりたい、そんな彼らの向上心に刺激を受けました。私は大学で法学部に所属していて将来国連で働きたいという夢があります。この経験がきっかけで海外の大学院に進学したいという新たな目標も生まれました。世界中の優秀な学生から刺激を受け、より一層努力をするモチベーションが生まれたことが何よりの収穫です。

4. 最後に

このような貴重な機会をいただき、埼玉県とりわけ渡航や入学に関して手続等様々な手配をしてくださった国際課の方々、ICTE-UQの方々には大変お世話になり深く御礼申し上げます。今回の経験を生かし将来世界で活躍するために今後もより一層大学での勉強に励み、将来埼玉県に恩返しができるように努めていきます。